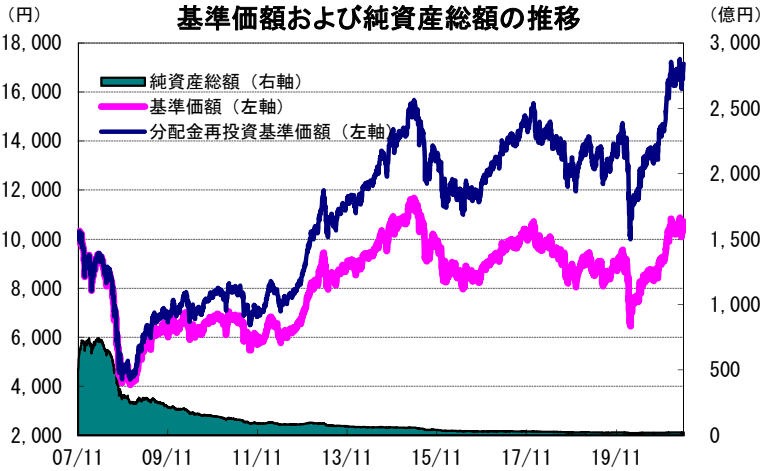


スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)

基準日 2021年05月31日



* 当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
* 当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

設定日	2007年11月30日
信託期間	2027年11月10日まで
決算日	毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各10日(休業日の場合は翌営業日)

基準価額	10,724円
純資産総額	20.78億円

ファンドの資産配分	
SPARX・アジア・ミッドイースト・エクイティ・インカム・ファンド	98.6%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.5%
現金等	0.9%

【ご参考】

基準価額変動の要因分解(月次ベース)

基準価額変動金額		金額
内訳	株式等	-194円
	アジア太平洋地域	-357円
	中東地域	45円
	為替	174円
	その他	-56円

* 金額は対象期間における基準価額(分配金込み)の変動を表したものです。
* 上記は参考情報として当社が算出した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

* 基準価額は信託報酬控除後の値です。信託報酬には、投資対象とする投資信託分を含みます。
* 分配金再投資基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の投資家利回りとは異なる点にご留意下さい。

騰落率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
	-1.12%	1.11%	18.69%	45.27%	21.59%	71.47%

* 基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し、計算しています。

分配金実績(税引前)

決算期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期	第81期
	19/7/10	19/9/10	19/11/11	20/1/10	20/3/10	20/5/11	20/7/10	20/9/10	20/11/10	21/1/12	21/3/10	21/5/10
分配金	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	30円	30円

分配金累計	直近12期計	設定来合計
	510円	3,645円

ポートフォリオの配分

国・地域別配分

	国・地域	比率	比率
アジア太平洋	台湾	23.2%	93.6%
	中国	22.5%	
	香港	13.9%	
	オーストラリア	11.9%	
	その他	22.1%	
中東	UAE	1.7%	2.2%
	サウジアラビア	0.5%	
現金等	—	4.2%	4.2%
合計		100.0%	100.0%

通貨別配分

	通貨	比率
1	香港ドル	33.5%
2	台湾ドル	24.2%
3	豪ドル	12.4%
4	韓国ウォン	8.4%
5	インドルピー	6.3%
	その他	15.2%
	合計	100.0%

業種別配分

	業種	比率
1	情報技術	26.7%
2	金融	19.2%
3	一般消費財	16.1%
4	コミュニケーション	12.3%
5	生活必需品	9.7%
	その他	16.0%
	合計	100.0%

* 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

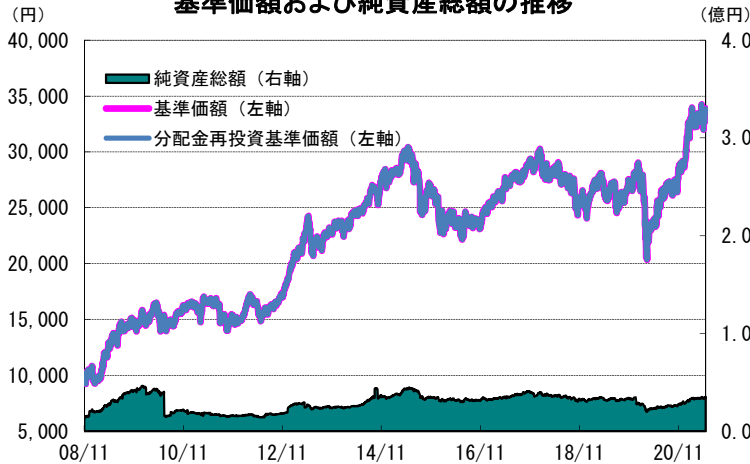
* スパークス・アジアの内部データを元に、スパークス・アセット・マネジメントが作成。
* 比率はSPARX・アジア・ミッドイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
* P-NOTEやADR等に投資している銘柄の通貨は、現地通貨ベースで算出しています。
P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことです。
ADRとは、主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことです。

■ 当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■ 当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■ 投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■ 投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■ 当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■ 当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■ 当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■ 当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■ 当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(資産成長型)

基準日 2021年05月31日

基準価額および純資産総額の推移



* 基準価額は信託報酬控除後の値です。信託報酬には、投資対象とする投資信託分を含みます。
* 分配金再投資基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の投資家利回りとは異なる点にご留意下さい。

騰落率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
	-1.12%	1.12%	17.95%	43.08%	21.76%	238.79%

* 基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し、計算しています。

* 当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
* 当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

設定日	2008年11月12日
信託期間	2027年11月10日まで
決算日	毎年11月10日 (休業日の場合は翌営業日)

基準価額	33.879円
純資産総額	0.35億円

ファンドの資産配分	
SPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンド	92.3%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.0%
現金等	7.7%

【ご参考】

基準価額変動の要因分解(月次ベース)		
基準価額変動金額		-383円
内訳	株式等	-706円
	アジア太平洋地域	-706円
	中東地域	89円
	為替	343円
	その他	-109円

* 金額は対象期間における基準価額の変動を表したものです。
* 上記は参考情報として当社が算出した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

分配金実績(税引前)

決算期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
	11/11/10	12/11/12	13/11/11	14/11/10	15/11/10	16/11/10	17/11/10	18/11/12	19/11/11	20/11/10
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

分配金累計	直近10期計	設定来合計
	0円	0円

ポートフォリオの配分

国・地域別配分

	国・地域	比率	比率
アジア太平洋	台湾	23.2%	93.6%
	中国	22.5%	
	香港	13.9%	
	オーストラリア	11.9%	
	その他	22.1%	
中東	UAE	1.7%	2.2%
	サウジアラビア	0.5%	
現金等	-	4.2%	4.2%
合計		100.0%	100.0%

通貨別配分

通貨	比率
1 香港ドル	33.5%
2 台湾ドル	24.2%
3 豪ドル	12.4%
4 韓国ウォン	8.4%
5 インドルピー	6.3%
その他	15.2%
合計	100.0%

業種別配分

業種	比率
1 情報技術	26.7%
2 金融	19.2%
3 一般消費財	16.1%
4 コミュニケーション	12.3%
5 生活必需品	9.7%
その他	16.0%
合計	100.0%

* 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

* スパークス・アジアの内部データを元に、スパークス・アセット・マネジメントが作成。
* 比率はSPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
* P-NOTEやADR等に投資している銘柄の通貨は、現地通貨ベースで算出しています。
P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことです。
ADRとは、主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことです。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2021年05月31日

組入上位銘柄

組入銘柄数	41
-------	----

NO	銘柄名	Pnote	国・地域	業種	組入比率	配当利回り
1	AIA Group Ltd		香港	金融	7.5%	1.5%
2	MediaTek Inc		台湾	情報技術	7.5%	5.3%
3	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd		台湾	情報技術	7.2%	1.8%
4	Tencent Holdings Ltd		中国	コミュニケーション・サービス	6.4%	0.3%
5	Samsung Electronics Co Ltd		韓国	情報技術	6.2%	2.1%
6	eMemory Technology Inc		台湾	情報技術	4.7%	1.7%
7	Aristocrat Leisure Ltd		オーストラリア	一般消費財・サービス	3.8%	1.0%
8	CSL Ltd		オーストラリア	ヘルスケア	3.4%	0.9%
9	Transurban Group		オーストラリア	資本財・サービス	3.3%	2.7%
10	Kweichow Moutai Co Ltd		中国	生活必需品	3.0%	1.0%

* 上記の銘柄の中には現株を含みます。
 * 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
 * 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

* 比率はSPARKX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
 * 配当利回りは12ヶ月配当利回り(税引前)です。
 * 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

地域別組入上位銘柄の概要

アジア・太平洋地域

アジア太平洋	銘柄名	Pnote	国・地域	銘柄概要
1	AIA Group Ltd		香港	友邦保険控股[AIAグループ](AIA Group Ltd.)は生命保険および金融サービス会社。個人・企業向け生命保険、傷害疾病保険、年金プランならびに健康管理サービスを提供。
2	MediaTek Inc		台湾	聯発科技[メディアテック](MediaTek Inc.)は、無線通信およびデジタルマルチメディア・ソリューションのファブレス半導体メーカー。無線通信、高解像度テレビ、光ディスク、DVD、ブルーレイ製品向けのSOCシステムソリューションを提供する。
3	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd		台湾	台湾積体回路製造[TSMC/台湾セムコンダクター](Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Ltd.)は半導体メーカー。ウエハー製造、プロービング、組み立て、テストのほか、マスクの製造、設計、関連サービスを提供。同社のIC(集積回路)はコンピュータ、通信、消費者向け電子製品、自動車、産業機器などに使用される。
4	Tencent Holdings Ltd		中国	騰訊[テンセント・ホールディングス](Tencent Holdings Limited)は投資持株会社。中国、米国、欧州などのユーザーにインターネットおよびモバイル付加価値サービス(VAS)、オンライン広告サービス、電子商取引サービスを提供する。
5	Samsung Electronics Co Ltd		韓国	サムスン電子(Samsung Electronics Co., Ltd)は電子機器・電気製品メーカー。半導体、パソコン、周辺機器、モニター、テレビなどをはじめとする民生用ならびに産業用電子機器・製品を製造、販売。エアコン、電子レンジなどの家電製品や、インターネット・アクセス・ネットワーク、携帯電話などの通信機器システムも製造する。

中東地域

中東	銘柄名	Pnote	国・地域	銘柄概要
1	First Abu Dhabi Bank PJSC		UAE	ファースト・アブダビ・バンク(First Abu Dhabi Bank PJSC)は銀行。預金、個人向けローン、e-バンキング、貿易金融、外貨取引、その他の銀行サービスを手掛ける。世界各地で事業を展開。
2	Saudi British Bank/The		サウジアラビア	サウジ・ブリティッシュ・バンク(Saudi British Bank)は、預金業務、リテールおよびコマース・バンキング・サービスを提供。消費者・シンジケートローン、仕組み債、プロジェクト金融、証券仲介、ファイナンシャル・プランニング、プライベート・バンキング、ミューチュアルファンド、ファクタリング、財務サービスなどを手掛ける。

* 上記は個別銘柄の取引を推奨するものではありません。
 * 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。
 * 出所:各社ホームページ

* 上記はSPARKX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドの組入上位銘柄です。
 * ADRとは主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことであり、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。
 * P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことであり、中東は全組入銘柄の概要です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2021年05月31日

コメント

■市場環境

《アジア株式》

当月、アジア株式市場のパフォーマンスは、まちまちでした。

日本を除くアジア太平洋市場に使用される一般的な指数であるMSCIアジア太平洋(日本を除く、米ドル建て)指数は、上昇して月を終えました。前半は物価上昇率の上昇と金利上昇の懸念から株価が軟調に推移しましたが、後半から回復に転じました。

インド、台湾、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシアなど複数のアジア諸国で新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加したため、経済の全面的回復は遅れるという見方が広がりました。アジア諸国の多くで新型コロナワクチンの接種が進んでいないことも懸念材料となりました。

中国では、5月の黄金周(中国のゴールデンウィーク)に国内旅行者が大幅に増加しましたが、小売売上高は予想を下回り、消費者心理が依然として比較的慎重であることが明らかになりました。中国のインターネット業者、不動産業者、教育関連事業者に対する規制強化は、当月も関連銘柄の株価下落要因となりました。

台湾、韓国、中国の半導体関連企業の価格決定力は、自動車産業をはじめとする様々な産業が半導体チップ不足の渦中にあることから、依然として強いです。ASEAN諸国の消費関連セクターはコモディティ価格の上昇に起因するコスト上昇に直面し、低所得者層の消費者の支出額が減少しました。

インドでは新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしていますが、インド株式市場は意外にも底堅く推移しました。これは、市場関係者が同国の長期的かつ構造的な成長性を引き続き強気に見ているためであると考えられます。

《中東株式》

当月、中東株式市場は概ね堅調に推移しました。

原油とコモディティの価格が堅調に推移していること、中東地域で新型コロナワクチン接種が急速に進展していることが相まって、投資家心理が改善しました。

《通貨》

当月、大半のアジア通貨は対日本円で上昇しました。特にインドルピー、中国人民元、フィリピンペソなどが対日本円で上昇しました。

■運用状況

《アジア株式》

当月、当ファンドが保有する株式のリターンは、マイナスとなりました。

セクター別では、金融セクター、生活必需品セクター、不動産セクターなどがプラスに貢献し、情報技術セクター、一般消費財セクターなどがマイナスに影響しました。

国別では、オーストラリア、インド、香港などがプラスに貢献し、台湾、中国などがマイナスに影響しました。

個別銘柄では、Momo.com(台湾/一般消費財)、Aristocrat Leisure(オーストラリア/一般消費財)、Kweichow Moutai(中国/生活必需品)などが、プラスに貢献しました。一方で、Mediatek Inc(台湾/情報技術)、New Oriental Education & Technology Group(中国/一般消費財)、eMemory Technology(台湾/情報技術)などが、マイナスに影響しました。

当月のパフォーマンスに貢献した銘柄の一つに、SBI Cards & Payment Services(インド/金融)があります。

同社は2020年3月に新規株式公開(IPO)を実施したインドのクレジットカード会社です。IPO当時の時価総額は約70億米ドル(5月末現在は100億米ドル超)で、新型コロナウイルス感染拡大により、消費者が支出を大幅に手控えた時期でした。当ファンドは同社を調査した結果、同社には長期的かつ構造的な成長力があると考え、2020年7月に投資を決定しました。

インドのクレジットカード業界はまだ黎明期にあり、カード発行枚数は人口13億人に対しわずか6,200万枚に過ぎません。同社はインド国内では業界第2位で、発行枚数は1,200万枚弱、市場シェアは約20%です。クレジットカードのターゲットユーザーは、購買力が高い高所得層です。クレジットカード業界は比較的寡占化が進んでおり、上位二社で市場シェアの44%、上位四社では72%を占めています。同業界は過去5年間、年平均で約22%成長しています。インド国内のクレジットカード普及率の低さから、同社は普及率が成熟状態になるまで長年にわたって成長を続けるでしょう。

同社に長期的かつ構造的な成長力があると考えられる理由は、以下のとおりです。

(1) クレジットカードユーザー数の増加

同社は、新規ユーザーの約50%を親会社であるState Bank of India(同社株式の約69%を保有)経由で獲得しています。State Bank of Indiaはインド最大級の銀行で、デビットカードの利用者はおよそ3億人に達しています。同社親会社State Bank of Indiaの顧客は、同社にとってはクレジットカード利用者の有力な「見込先」です。さらに、同社は小規模銀行や小売店数社が加盟する共同ブランドカード事業も主導しており、クレジットカード発行枚数が今後5年で倍増する可能性があると考えます。

(2) 取引件数と平均支出額の増加

インドでは、クレジットカードで料金の決済を行う習慣がまだ根付いていません。カード保有者の中で、クレジットカードを30日以内に1回以上使用する人は50%にすぎません。クレジットカードをほぼ毎日使用している人が多い先進国と比較すると格段の差です。したがって、キャンペーン(特典やポイントシステムなど)や取扱店舗の増加によってクレジットカードの利用が根付けば、取引件数と平均支出額も次第に増加するでしょう。取引件数と支出額が増加すれば、同社の手数料収入も増加することになります。

(次ページへ)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社に購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2021年05月31日

コメント

(前ページより)

(3) 与信額の増加

利用者数と支出額が増加すると、金利収入が次第に拡大します。同社の貸付残高の内訳は現在、カード処理者の未収債権(ユーザーは期日に支払い、金利の支払いは不要)が約35%、リボルビングローン(ユーザーは年利約42%を支払う)が約30%、分割払い(ユーザーはローン残高を分割払いのローンに転換することができ、年利14%を支払う)が約30%です。貸付の預貸利鞘は約16%で、収入の約50%に相当します。

与信限度額は通常、月給の1ヵ月から2ヵ月分程度なので、不良債権の水準は1%前後と、かなり低くなっています。利用者の多くはそのような少額の返済を怠り、信用度が傷つくのを嫌がります。将来的に住宅や事業向けにより高額の資金が必要になっても融資が受けられなくなるためです。

同社は財務体質が健全で、株主資本利益率(ROE)が20%強と高いことから(新型コロナウイルス感染拡大前)、今後数年にわたって高成長を遂げ、投資に見合ったリターンをもたらすと、当ファンドは考えます。

当ファンドは、引き続き既存の投資先を注視し、また今後の投資先候補の企業に関する調査も継続することで、優れたビジネスモデル、良好なバランスシート、持続的な成長の見通しを備えた「優良企業」を選別してまいります。

《中東株式》

当月は、景気見通しのよさとMSCI指数への組入比率の引き上げが材料視され、First Abu Dhabi Bank(アラブ首長国連邦/金融)が上昇しました。一方、Saudi British Bank(サウジアラビア/金融)は横ばいで推移しました。中東地域の景気回復によって貸付残高が拡大する一方で、コストは引き続き改善する見通しです。

《通貨》

当月、アジア地域と中東地域の通貨は、対日本円で概ね上昇し、全体として当ファンドのリターンにプラスに貢献しました。

■今後の見通し

《アジア株式》

アジア地域では、「コロナ禍」後の経済回復の状況は国によって異なると考えられます。

台湾、タイ、ベトナムなど数カ国では、新型コロナウイルス新規感染者数が再び急増しており、経済の回復が遅れる見込みです。先進国では新型コロナワクチン接種が進んでいるため、経済回復によってコモディティ価格が上昇し、物価の上昇や利上げを予想する声が高まるでしょう。企業の多くは原材料費の増加によるコスト上昇圧力を受け、2021年下期に利益率が減少する見込みです。物価上昇率の上昇と利上げが見込まれる中、株式市場の不安定な値動きは今後数ヵ月続くと考えられます。

世界で新型コロナワクチン接種がさらに進めば、当ファンドは「コロナ禍」後を見通し、アジア地域における長期的かつ構造的な投資機会に注目して調査を進めていく予定です。

中国は当月、中国国内の労働力が今後10年間で減少する模様であるとの最新の国勢調査の結果を発表しました。これによって中国の長期的な生産性が低下する可能性があります。したがって、この問題に対処するため、自動化やデジタル化などの分野でさらにイノベーションや需要が生まれると考えられます。

ASEAN諸国とインドについては、安価な労働力が利用できることから、同地域に工場を設立する企業が増えるでしょう。米中両国の貿易関係を踏まえると、サプライチェーンにおける中国離れもASEAN諸国とインドへの生産能力の移行を後押しする力となるでしょう。当ファンドはこうした動向や、そこから恩恵を受ける企業を注視してまいります。

当ファンドの目的は、配当収益とキャピタルゲインを通じて長期的にリターンを上げることにあります。当ファンドのポートフォリオはバランスがとれており、短期的なマクロイベントやスタイル・ローテーションにも耐えることができると、私どもは考えています。当ファンドは、グロース株、バリュー株、その他の分類といった市場認識に関係なく、キャッシュフローまたは配当金を生成する能力がある企業のファンダメンタルズを重視しています。アジア経済の興隆とアジア企業の地位向上という長期的な投資テーマは健在で、今後も続くと考えられます。当ファンドの使命は、信頼する企業への投資を継続しつつ、私どもが選好する次の優良成長企業になる潜在性を示している、アジア地域の新興企業を継続的に探し求めることにあります。

《中東株式》

原油市場の価格変動が激しく、地政学的リスクがあることから、当ファンドは中東の株式市場を慎重にみています。政府による景気刺激策により、今後数年間は銀行セクターの貸し出しが増加する可能性があります。当ファンドは、金融セクターの保有銘柄を引き続き楽観視しています。

《通貨》

通貨は短期的には資本フローの影響によって大きく変動すると思われませんが、長期的観点でみるとアジア地域および中東地域の経済のファンダメンタルズに力強さがみられることから、両地域の通貨は対日本円で上昇すると、私どもは考えます。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。